

**三保松原景観改善技術フォローアップ会議  
第6回技術検討ワーキング部会 議事概要**

|      |  |
|------|--|
| 日 時  | 令和5年5月29日（月）10：00～11：10  |
| 場 所  | 静岡県庁別館2階第1会議室A   |
| 議 事  | I. 検討事項<br>1. 2号新堤（南）の函体天端形状<br>II. 報告事項<br>1. 2号新堤整備における課題への対応<br>2. 今後の事業実施予定  |
| 配布資料 | 1 議事次第、出席者名簿、座席表<br>2 三保松原景観改善技術フォローアップ会議 設立趣意<br>3 三保松原景観改善技術フォローアップ会議 技術検討ワーキング部会 設置要綱<br>4 清水海岸三保松原景観改善の取組の経緯<br>5 説明資料 |

<議事概要>（○：委員、●：事務局）

**I. 検討事項**

**1. 2号新堤（南）の函体天端形状**

- この景観改善プロジェクトの始まりは、「小丘」という表現で、消波ブロックの凹凸感が景観上望ましくないとイコモスから指摘を受けたことである。今回の2号新堤（南）の技術提案は側壁に切欠きを持ち、視点場によって凹凸感が感じられる所と、逆にすっきり見える所があり、人それぞれ感覚的に捉え方が異なることが問題である。その中で、整備費が莫大でありマイナスのイメージを持った意見に対しては、しっかりと説明責任を果たせるようにロジックを整理していく必要がある。個人の印象評価ではなく、論理立てて説明する必要があることから、三保松原景観改善技術フォローアップ会議での検討を審査委員会でお願した経緯がある。
- ゲシュタルト心理学によると、滑らかな線や直線は視線が停滞せず、抵抗がない。特に人工物の場合は直線が勝ると抵抗が少ないが、消波ブロックのようにごちゃごちゃしていると視線が止まるため、できるだけ抵抗のない直線的であることが望ましい。このように心理学的に考えると、今回の場合は切欠きなしが良い。一方で、人工物はできるだけ海面上に出ない方が良かったため、切欠きありが良いという考え方もある。人間がどのように物を見るかという心理的な部分と、海面上に出ない方が良いという2点から考えていくべきであり、それを踏まえると切欠きがあった方が良い。
- 写真に焦点距離の記載があるが、焦点距離では分かりにくいいため、左右の画角が何度であるかを示すべきである。
- 函体のサイズはどのように決定したのか、考え方を教えていただきたい。
- 2号新堤は1号突堤よりも波が高く、沖側の斜面が急であるため僅かに波力が大きい。函体の沖側上部が斜面形状である方が、波が当たったときに有利であるということで、そのような形状にした経緯がある。また、通常ブロック式が重力のみで抵抗するのに対して、今回

- は杭式であり1号突堤と比較すると波力が増えるため、函体の幅が広くなり、杭の長さも必要となって大幅なコストアップにつながった。
- 構造を決定した考え方を分かりやすく示していただきたい。
  - ゲシュタルト心理学という観点からアプローチすると、視点の収まりが説明できると思った。一方で、1号突堤と2号新堤の形状が違うことに対して、1号突堤の良し悪しが問われることになりかねない。両者の関係を紐解いていく必要がある。
  - 2号新堤は幅が長いため、切欠きがないと若干鬱陶しく感じる。フォトモンタージュの視点場は2号新堤に近いが、大多数の観光客はL型突堤付近から2号新堤を見ることになる。「1号突堤は観光客の視点場に近いため凹凸感を排除した形状であり、2号新堤は観光客からは遠くに見えて、かつ函体幅が広いため切欠きありの形状とした」という説明はどうか。1号突堤の入札時にも切欠きありの形状を検討したが、観光客の視点場から近いため切欠きなし形状を採用した経緯がある。2号新堤は観光客から遠いことや、工費が若干削減できることで説明できるのではないか。
  - 視距離の違いによって函体形状の見え方が異なる。フォトモンタージュによると、L型突堤から2号新堤までは距離があるため、切欠きあり形状がそれほど目立たない。加えて、切欠きにより工費の削減が可能になったと考えれば、説明は可能と思われる。
  - 2号新堤（北）は観光客の視点場からさらに離れるため、今後2号新堤（北）を検討する際にもこの理屈を持ち続けたいと方針としてぶれてしまう。
  - 2号新堤（南）は切欠きあり形状で問題ないが、その理由をきちんと示すべきである。
  - 人が多く集まるのはL型突堤の周辺であり、その付近からのフォトモンタージュを確認しても大きな違和感がなく、コストの削減にもつながるという物理的な理屈が重要である。非常に有意義なロジックになったと思う。
  - 経験という意味では、1号突堤と比べて2号新堤では、縦堤が無くても十分に機能を発揮することを合わせて説明すると良い。
  - ゲシュタルト心理学では、直線が勝ると視線が留まらず抵抗がないとのことであったが、切欠きがないほうが直線的で良いという考え方もあるのではないか。
  - 2号新堤を近景で見るとそのようなロジックになるが、中景・遠景では大きな影響はないと思われる。大多数の観光客が集まるL型突堤周辺からの見え方とコスト削減が、大きい理由になるのではないか。
  - 一般的な観光客の視点場は2号新堤から離れているため、切欠きあり形状でも遠目に見ること直線的に見え、大きな影響はないということに理解した。

## II. 報告事項

1. 2号新堤整備における課題への対応
2. 今後の事業実施予定

- 事前レクにて、養浜盛土の浜崖が目立つ現状について指摘があったが、今後対応する予定はあるか。
- 養浜盛土の形状については、前回の第9回フォローアップ会議で景観に配慮した盛土形状を議論いただき方針が決まったところである。近年は大きな波浪が来襲していないため、現在

は養浜盛土がなかなか流出しておらず、新たに手を加えることが難しい状況である。今後、養浜材が流出した後は、前回会議で決まった形状で養浜盛土を実施する。

- 浜崖が滑らかなるように、法先をもう少し汀線側に押し出すことは技術的に難しいか。
- 今後着手する2号新堤の施工を考えると、汀線側に押し出すことは控えたほうがよい。前回の会議でも、新堤の施工を計画通りに実施できるように対応するという議論があった。
- 今後は2号新堤の施工面で調整が必要となるが、できる限り景観への影響も考えていきたい。
- 2号新堤と1号突堤の違いとして、2号新堤では縦堤が無くなったことを示した方がよい。
- 2号新堤に関しては、今後構造が決まり次第周知していく。1号突堤との違いとして、縦堤が無くなったことについてもアピールしていきたい。

以上